

兵 庫 県
保 險 医 協 会

加古川 高砂 支部 ニュース

No. 263

2019年8月5日

発行

兵庫県保険医協会 加古川・高砂支部

(連絡先) 神戸市中央区海岸通一丁目三三

神戸フコク生命海岸通ビル五階

電話〇七八(三九三)一八〇一

【研究会】「医療機関で知っておきたい医療・福祉の役立つ制度」

患者さんの負担軽減のために 私たちにできること

加古川・高砂支部は7月6日、東播磨生活創造センターかこむで研究会を開催。神戸女子大学客員講師の阿江善春先生を講師に招き、「医療機関で知っておきたい 医療・福祉の役立つ制度」をテーマに講演し、医師・歯科医師・看護師・施設関係者ら64人が参加した。

阿江先生は「社会保障としての医療の根拠は、日本国憲法25条（健康で文化的な最低限度の生活、国家責任）と、世界人権宣言と国際

参加者から寄せられた声

人権規約（経済的、社会的及び文化的権利）からきている。困っている患者がいたら、たとえばベストでなくとも、よりベターを探して一緒に考え動いてみるのが大切。すぐに答えが出なくても、『誰か聞いてくれる人がいる』ということに信頼につながる。3福祉（高齢・障がい・児童）+公的扶助（生活保護）+5保険（医療・年金・雇用・労災・介護）をうまくつなげて活用することでかなりの人を助けることができる」と語った上で、特

別障害者手当などの医療・福祉の制度について、確かに知らない人は多いと思います。私自身のマナーリテラシーが低いためFP2級を取得しましたが、素晴らしい制度も知らないと意味がありませんので、患者さんにも伝えていきたいと思っています。（医師）

〇療養している患者があきらめず治療が受けられるための制度を



講師の阿江善春先生



参加者から多くの質問が寄せられた

知ることができてよかったです。もつと行政が市民に対して使える制度の広報をどんどんすすめてほしいと思いました。（看護師）

〇先生、これからも県や市と闘っていただきたいです。とても親身でやさしくて、また、力強いお話でした。自身の両親のもしもの時に思い出せたら活用したいと思いました。ありがとうございました。（ケアマネジャー）

〇知らない制度が多いことを実感しました。認知症の方でも精神障害者手帳が受けられたり、傷病手当金とハローワークのからくり等、今回の制度について勉強したことを、今後の業務に生かしていきたいと思います。（ケアマネジャー）

〇年金受給者でもギリギリの生活を送っている方もおられます。制度を利用して生活が良くなるということが学べました。先生が言われていたように、目の前の人の話をよく聴く、どうしたんですかと声をかけることから始めていきます。（ケアマネジャー）

〇3回とも参加。ようやく話の内容もわかるようになりました。特別障害手当を知ることができてよかったです。（ケアマネジャー）

〇各法律の条文を根拠にして支援する大切さを学びました。また、クライアントの背景をしっかりと理解しないと、その人に適した制度をお伝えすることができないことを実感しました。（MSW）

※次号で感想文を掲載予定。

☆支部幹事会だより☆

7月11日(木) 19時～於加古川商工会議所

<報告>

組織現勢、医療情勢、臨床研究会まとめ、支部研究会、今後の支部企画(第38回支部総会)について討議しました。

<組織現勢(7月末)>

加古川市・加古郡: 医科184人 / 歯科108人
高砂市: 医科54人 / 歯科36人

<8月幹事会は休会です>

<9月日程>

9月5日(木) 19時～於加古川商工会議所

幹事会には、会員の先生はどなたでもご参加いただけます!!

お問い合わせは、TEL 078-393-1805

FAX 078-393-1802

担当: 沖野・荒川まで



第38回支部総会のご案内

ご本家
来たる!!

もしものための話し合い

もしバナゲーム

～アドバンス・ケア・プランニング(ACP)～

日程: 10月19日(土) 総会議事: 15時～

会場: 加古川プラザホテル

記念講演: 15時30分～17時30分

講師: 亀田総合病院 iACP 理事 **大川 薫** 先生

懇親会: 17時45分～(参加費無料)

TEL 078-393-1805 担当: 沖野・荒川まで



参加者から日常診療における質問がたくさん出された

【臨床研究会・感想文】

アレルギーは奥が深い

加古川・高砂支部は6月22日、臨床研究会を加古川プラザホテルで開催し、15人が参加した。医師で中京大学スポーツ科学部教授の坂本龍雄先生が「増加する大人の食物アレルギー～身につけたいアナフィラキシー対応の基本～」(前号既報)をテーマに講演した。三木健史先生からの感想を紹介する。



エピペンの使用法を説明する坂本龍雄先生

実を申し上げますと、アレルギーの講演は緊急性があり重要なこととは分かってはおりましたが、それほど日常診療で接すること、それほど関心がありませんでした。しかし予想に反してとても充実した講演でした。

まずは食物アレルギーの診断から始まり、喉頭浮腫や気管支収縮による気道症状に加えて嘔吐、腹痛を症状とする消化器症状の説明もあり鑑別診断に重要と思われました。

また実技としてエピペンの練習もありました。実際にエピペンの打ち方を聞くのはいつ以来だったか忘れるくらいであったため、大変新鮮な体験でした。

症状は軽度に見えてもすぐに重篤な状態に移行することもあり、迷ったら注射することを心掛けたいです。しかも皮下注ではなく、大腿外側部に筋注で、かつ打つことも大事であるが大腿の固定も重要であること、またせいぜい3秒程度で10秒などあまり押し付けると針による裂傷があることは初耳でした。

もう一つ参考になったことは、豆腐は大丈夫なのに豆乳でアレルギーが出てかつ重症になることが多くなっていることです。アレルギーは奥が深いです。最後に当院でもアレルギーを起こしうる抗生剤の点滴も行っており、アレルギーは身近な存在でその危険性を認識するとともに、緊急時に対応できる準備を怠らないことが大切なことを改めて実感しました。

その後の懇親会では先生の誠実な人柄のお陰で、大変盛り上がったことを付け加えておきます。貴重なご講演、誠にありがとうございました。

【高砂市・三木医院 三木健史】